

由布市災害ボランティアバイク隊

～令和5年12月15日（金）訪問～ 【由布市】



由布市災害ボランティアバイク隊は、大分県中部地震や阪神淡路大震災において、多くの交通途絶が発生したことを教訓として、平成26年に防災士資格等を有するバイク愛好家を中心に発足しました。災害発生時には、現地に向かう実行部隊と、各関係機関との連携を図る事務局に分かれて活動し、情報収集や物資の輸送等を行います。

令和2年7月豪雨では、由布市内でも多くの土砂崩れ等の災害が発生しましたが、土砂崩れ箇所や道路の被害状況などの確認を行うなど大いに活躍されたそうです。

また、豊後大野市や中津市のボランティアバイク隊とも連携し、大規模災害に対応するための訓練を日々行っているほか、野焼きの消火作業などのボランティアにも積極的に参加しているとのことでした。

発足の経緯やこれまでの活動についてお聞きするとともに、活動に必要な資機材の提供や県の防災訓練への参加など、様々なご意見、ご要望をお伺いしました。

皆さんには、大規模災害時には、県・市町村と関係機関が密に連携することが大変重要であり、今後ともご協力をお願いしたいとお伝えし、懇談後には、練習場にてモトクロスバイクの走行を見学させていただきました。

対 話 風 景



災害時におけるバイクの有効性について

○渋滞による時間ロスの回避

災害が発生すると、多くの場合で交通渋滞が起きますが、バイクは迅速に移動でき、いち早く目的地に到達できます。阪神・淡路大震災の際は、大阪市旭区から神戸市まで四輪では16時間かかったところを、バイクは2時間で到着しました。

○四輪が通行不能な場所も走破可能

地震によって道路が崩れ、亀裂や段差が生じます。バイクはそうした場所でも通り抜けたり、即座にUターンして後戻りしたりできるなど、機動性に優れています。

○燃費に優れ、持続的な活動が可能

東日本大震災では、深刻な燃料不足が発生し、ガソリンスタンドは給油待ちの車両が出来ました。バイクは燃費に優れており、とくに原付バイクは一度の給油で長時間の活動が可能です。

<一般社団法人日本自動車工業会二輪車特別委員会の資料から抜粋しています>

https://www.jama.or.jp/operation/motorcycle/environment/pdf/disaster_measures.pdf

